

資料編



第四次福山市総合計画 基本構想

2006年(平成18年)12月1日議決

1 総合計画策定の趣旨

福山市は、1995年(平成7年)に第三次福山市総合計画を策定し、「輝く瀬戸内の交流拠点都市 個性豊かなばらのまち 福山」を将来都市像に掲げ、1998年(平成10年)には中核市^{*}へ移行するとともに、21世紀への橋渡しとなる施策や事業を進めてきました。こうした取組により、備後地域の中核都市として着実に発展してきました。

最近では内海町、新市町、沼隈町、神辺町との合併により、市域も人口も拡大し、都市としてのあり様も大きく変化しています。

また、我が国は、これから世界でも経験したことがない少子高齢時代に突入し、人口減少社会への移行、本格的な地方分権時代の到来など社会構造の大きな転換期を迎えており、時代の流れは、拡大から持続・成熟の基調にあります。

こうした社会経済情勢を踏まえれば、行財政を取り巻く環境は一段と厳しくなるものと予想され、多様化する市民ニーズに対応した施策を展開するためには、市民にとって本当に必要なものは何か、だれが主体となって実施すべきなのかをより明確にする中で、市民とともに進めていかなければなりません。

本市には新たに合併した地域を含め海、山、川などの自然、歴史・文化、産業など豊富な地域資源があります。今後は、こうした福山市固有の地域資源を都市ブランドとして更に掘り起すとともに、磨き、輝かせることにより、福山市の確固たるアイデンティティー^{*}を確立していくことが必要です。そして、将来を担う子どもたちを始め地域のすべての人が、住んで良かったと福山市を胸を張って誇ることができるよう、個性豊かで自立したまちづくりを行っていかねばなりません。

この総合計画は、現在までの発展の成果を継承するとともに、新たな時代の潮流やこれからの時代のニーズに対応した将来のまちの姿を明らかにし、それを実現するた

めに市民と行政が協働して取り組む新しいまちづくりの指針として示すものであり、福山市にかかわる様々な市民や団体が共有し、ともにめざすべきビジョンともなるものです。

2 総合計画の構成と期間

第四次福山市総合計画は、「基本構想」「基本計画」及び「実施計画」で構成します。

【基本構想】

「基本構想」は、総合計画の最も上位に位置し、福山市がめざすべき将来都市像やまちづくりの基本方向を示すとともに、これを達成するためのまちづくりの大綱を明確にしたものです。2016年度(平成28年度)を目標年次とします。

【基本計画】

「基本計画」は、基本構想の実現に向けて、部門ごとに施策等を体系的に示すものです。計画期間は、前期と後期に分け、前期計画は2007年度(平成19年度)から2011年度(平成23年度)までの5年間とします。

【実施計画】

「実施計画」は、基本計画に示した施策を計画的、効果的に実施するための具体的な計画を掲げたもので、計画期間は3年間とし、必要に応じて内容の見直しを行います。

3 これからの社会展望と福山市の現状

(1) これからの社会展望

我が国は、現在、大きな変革期の最中にあります。世界でも経験したことのないスピードでの少子高齢時代への突入、人口減少社会への移行、団塊の世代^{*}の大量退職など、社会構造の大きな転換期を迎えています。これまで有効であった戦後の社会経済

^{*}中核市とは、比較的大きな都市(人口30万人以上)について、その事務権限を強化し、できる限り住民の身近で行政を行うことができる市のこと。

^{*}アイデンティティーとは、自分が自分である独自性、主体性のこと。都市におけるアイデンティティーとは、他の都市とは異なった都市の特性、個性のこと。

^{*}団塊の世代とは、おおむね、1947年(昭和22年)から1949年(昭和24年)ごろまでに生まれた人々のこと。

システムは通用しなくなっており、今後の予測困難な時代を乗り切るためには大変難しい判断が求められています。

今後のまちづくりに当たっては、こうしたこれからの社会を展望し、時代の潮流に的確に対応していくことが不可欠です。

① グローバル社会

人、モノ、資本、情報が国境を越えて交流し、政治経済や日常生活など、様々な側面でグローバル^{*}な社会となっています。

こうしたグローバル化の進展に伴い、外国人など文化の異なる人との交流機会が増加するため、地域社会の特性や歴史・文化などへの理解を深める中、国際感覚を身に付けた人材育成が重要になります。

また、経済のグローバル化により地域経済に大きな影響が与えられる可能性も考えられ、産業競争力を高め、世界経済の動向を踏まえた施策の推進を図っていくことが求められます。

さらには、グローバル社会を背景にして、国際的に人権尊重の気運が高まっており、すべての人々の人権が尊重される社会を実現していくことが求められています。

② ソフト重視の経済社会

第一次産業や第二次産業が縮小する一方で、第三次産業は今後とも持続的に拡大していくことが予想されています。

中でもサービス業が就業人口や生産額のシェアを伸ばしています。特に、ビジネス支援サービス^{*}の拡大が期待されており、ものづくりにより培われた経験や知識等のソフトの役割が重要となっています。

今後は、経済のソフト化・サービス化^{*}に伴い、製造業等を支援するためのビジネス支援サービス産業などが円滑に事業展開を行うことのできる環境整備を図ることが求められます。

^{*}グローバルとは、地球的な規模のこと。

^{*}ビジネス支援サービスとは、人材派遣や情報サービス、デザインなどのサービスのことで、製造業などのビジネスを支援するサービスのこと。

^{*}経済のソフト化・サービス化とは、経済社会の発展に伴い、情報やサービス、知識等のソフト的な要素の占める部分が経済社会の中で大きくなる変化のこと。

^{*}超高齢社会とは、一般的に、総人口における65歳以上の割合が、21%以上の社会のこと。(7%以上が「高齢化社会」、14%以上が「高齢社会」)

^{*}NPOとは、Non Profit Organizationの略で、民間非営利団体(組織)と訳される。医療・福祉、環境、災害復興、地域復興など様々な分野の市民運動やボランティア活動などをする団体(組織)のこと。

^{*}NGOとは、Non-Governmental Organizationの略で、一般に非政府組織と訳される。国際的・地球規模の問題に取り組む環境団体や女性団体等非政府・非営利の組織のこと。

^{*}循環型社会とは、廃棄物等の発生を抑制するとともに、再使用や再生利用及び適正な処分を行うことにより、天然資源の消費を少なくし、環境への負荷ができる限り低減される社会のこと。

③ 少子高齢化の進行と人口減少社会

我が国は、老年人口(65歳以上)が増加する一方で、年少人口(0~14歳)は減少しており、2000年(平成12年)を目前にして、年少人口が老年人口を下回りました。また、少子化による出生数の低下と高齢化の進行に伴う死亡者数の増加により自然増減も減少傾向が続いており、今後も総人口の減少が予想されています。

少子高齢化とこれに伴う人口減少は、労働力の不足、税収不足、社会保障費の増加となって家庭や地域社会はもとより、経済、労働、教育、福祉など社会生活の全般にわたり、様々な影響を及ぼします。このため、定住人口等の増加に向けた方策や地域資源を活用して今後どのようにまちづくりを展開していくのか、市民とともに検討していくことが重要となります。

こうした中、少子化問題や子育て支援対策として、子どもを生み育てやすい環境づくりを行うとともに、次代を担う子どもたちの健やかな成長を支援するため、確かな学力、個性豊かな創造力や感性を身に付けるための教育の一層の充実や安心して生活できる環境づくりの推進が求められています。

また、急速な高齢化が進行する「超高齢社会^{*}」の中で、だれもが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会の理念が浸透しつつあります。年齢や性別、障がいの有無等にかかわらず、様々な分野でともに活躍できる社会の実現のための施策展開などが重要になります。一人ひとりが、健康で安心していきいきと生活でき、だれもが自己能力を発揮して、社会参加ができ、生きがいのある生活を営むことができる環境づくりが求められています。

④ 循環型社会

地球環境問題の深刻化に伴い、国や自治体、国民、NPO^{*}、NGO^{*}、事業者の各主体がそれぞれの役割に応じて、循環型社会^{*}

の実現に向けた着実な取組が求められています。こうした中で、企業においては、ISO14001^{*}の審査登録件数が急速に増加し、環境保全活動に取り組む特定非営利活動法人数も増加しています。また、自治体の約半数が既に環境保全の観点から住民との連携や協働を実践しています。

循環型社会の実現においては、行政のみによる取組ではなく、企業や市民の活動がベースとなって取り組まれる必要があるため、企業や市民との協働の体制を十分に整備していくことが求められます。

⑤高度情報化社会

インターネットによる高速通信技術の発達を通じて、日常生活を始め、高齢者や障がい者に対する生活支援環境の充実、災害時の安否確認、在宅勤務や電子商取引の活性化など様々な面で利便性が向上するというメリットがあります。

また、インターネットの利用拡大は、市民相互の交流機会の増加や行政サービスを受受する手段の充実につながるため、まちづくりの手段として情報通信技術を活用していくことは重要です。

しかし、一方ではコンピュータウイルス^{**}や不正アクセス、個人のプライバシー流出などハイテク犯罪^{**}の脅威が問題となっており、市民へのサービスの向上のために情報通信技術を活用したまちづくりを推進する必要性とともに、万全なセキュリティ確保の体制を構築することが求められます。

⑥雇用形態が多様化する社会

これまでの景気の長期低迷を背景に、企業は人員整理や派遣社員、パートの活用を進めるなど雇用形態が大きく変化しています。また、若年層では、定職を持たないフリーター^{**}やニート^{**}の増加が、個人消費の落ち込みや税収の低下、社会保障費の負担増をもたらすなど様々な問題が懸念されて

います。こうしたことから、個人の価値観の変化などにも配慮の上、若者の就職支援を強化することが重要と考えられます。

また、大量の団塊の世代が定年退職を迎えるいわゆる2007年問題への対応が必要になっており、退職後も技術・技能やノウハウを持つ人材がものづくりを継承するなどの方策や、退職した人材を活用したコミュニティビジネス^{**}、地域づくりの担い手の育成などの方策が重要になると考えられます。

⑦安心・安全が重視される社会

近年、犯罪の認知件数が増加傾向にありますが、犯罪の増加は、市民の不安を高めるものであり、身近な犯罪に対しては、各地域の防犯体制を強化し、また自然災害などに対する防災体制の強化も図ることで、安心・安全のまちづくりに向けた地域体制を整備していくことが極めて重要となります。

また、内閣府「国民生活に関する世論調査」によれば、多くの人が日常生活で悩みや不安を感じており、年々増加する傾向にあります。こうした日常生活における不安は、社会保障制度や雇用環境、収入が不安定なことなどがその背景としてあり、不安解消に向けて雇用の場の確保や保健・医療・福祉サービスの充実を始め、だれもが安心・安全に生活できる環境づくりに努めていくことが必要となります。

⑧自治体の政策能力や改革が求められる社会

地方分権の進展に伴い、自治体に対して多くの事務や権限の移譲が進められており、政策手段が豊富になる一方で、自治体の政策形成能力が問われる時期にきているといえます。

また、全国的な市町村合併が進み、今後、都道府県合併や道州制^{**}の導入などが進めば、これまでの都道府県の区域を前提としたまちづくりは再編を迫られることにな

^{*}ISO14001とは、環境関連法規を遵守するとともに、環境関連の目的、目標を定め、それを組織的に実現し、継続的な改善を行う仕組みを構築し運営するための国際的な規格のこと。

^{**}コンピュータウイルスとは、インターネット等を介してコンピュータに入り込み、意図的に悪影響を及ぼすように作られたプログラムのこと。

^{**}ハイテク犯罪とは、コンピュータ技術や電気通信技術を悪用して行う犯罪のこと。

^{**}フリーターとは、正社員以外のアルバイト、パートタイマー、派遣など非正規雇用形態により生計を立てている人のこと。

^{**}ニートとは、就業(家事手伝いを含む)、就学をせず、また、就労に向けた具体的な活動を行っていない人のこと。

^{**}コミュニティビジネスとは、地域の資源を活用して取り組むビジネスで、利益追求に加えて地域における課題解決やニーズへの対応を図るものこと。

^{**}道州制とは、社会や経済の変化に伴い、現行の府県制の不相当を是正しようとして構想されたもので、数府県の地域を単位とする広域行政体として、道または州を置く制度のこと。

り、近隣地域との連携を踏まえた施策を展開していくことが求められます。

一方、税収の伸び悩みや少子高齢化の進行により、地方財政はますます厳しくなっており、各自治体は行財政改革をより一層積極的に進めることが必要となっています。

これまでも、各自治体では行政評価システムの導入、民間活力の導入等の推進に取り組んできましたが、今後とも施策の選択と重点化を図るとともに行財政改革をより積極的に推進し、良質な行政サービスを提供していくことが求められます。

⑨ 市民と行政が協働する社会

市民や自治会・町内会、ボランティア、NPO、企業などと行政が協働でまちづくりを推進していく気運が高まっています。

自己決定・自己責任の下、まちづくりの主役である市民が満足し、心豊かに生活するためには、多様な主体が地域を守り、育て、そして次の世代へ引き継いでいくことが重要です。

今後、市民と行政がお互いの責任と役割を分担しながら、「自助」「共助」「公助」によるまちづくりを推進していくためには、自治会・町内会を始めとした多様な主体が相互に理解し、自主・自立の下に目的を共有し、身近な活動である防災や福祉、環境、教育等の分野において協働することが求められます。このため、事業を推進する者は事業評価を的確に行うとともに、積極的な情報公開に努め、説明責任を果たすことが求められています。

(2) 福山市の現状と特性

① 広域的位置付け

福山市は、瀬戸内沿岸の中央部に位置し、北は神石高原町、西は府中市、尾道市と接し、東は岡山県笠岡市、井原市と接する人口約47万人、面積約518平方キロメートルの都市です。

広域的に見た福山市の優位性としては、高速交通網の結節点、広島空港や岡山空港

へのアクセスの良さや中国や韓国を結ぶ福山港からの海外定期コンテナ航路などが挙げられます。

さらに、福山市は古くから県境を越えた岡山県の井笠地方とも歴史的、文化的、経済的に結び付きが強く、独自の文化や経済圏を有する備後地域の中核都市であり、現在も産業や交通、観光、自然などの分野で地域連携を進めているなど、広域的位置付けとしての強みがあります。

一方で、社会増減は転出超過となっており、商圏人口の減少や訪れる観光客の伸び悩み、中心市街地の空洞化が懸念されます。

こうしたことから、新しいまちづくりにおいては、広域的位置付けから見た拠点性を高めるための施策を重点的に推進していくことが求められます。

② 社会・経済的特性

福山市には、大手メーカーやオンリーワン、ナンバーワンなどの特色ある企業が多く立地しており、また伝統的な地場産業を有するなど、多種多様な製造業が集積しているという優位性があります。

また、保育所数、幼稚園数ともに多く、子育て応援センターを含め、就学前施設が充実しているなど、子育てをしやすい環境であること、1小学校区に1公民館が整備されていることも、福山市の強みであり、これからの時代で重視される都市内分権^{*}や協働によるまちづくりの環境が整備されているといえます。

一方では、人口増加の停滞による都市活力の低下のおそれや、世帯当たり人員の減少や単独世帯等の増加などに伴うコミュニティ^{**}機能の低下、事業所数や従業者数の減少、卸売機能の低下などが懸念されます。

今後の新しいまちづくりにおいては、福山市の強みを活かし、弱みを克服することにより、個性豊かな地域づくりが重要になります。

また、市民意識調査^{**}によれば、多くの市民が福山市に対して、住み続けたいという気持ちがあり、住みやすさに関しても満足している状況がわかります。

しかし、将来に対しては、国の社会保障制

^{*}都市内分権とは、地域の課題に対して、地域の団体や市民が連携して主体的に事業を計画し、実施できるようにする仕組みづくりのこと。

^{**}コミュニティとは、人々が、地域で共同してよりよい生活条件や社会関係を実現するために取り組む活動又はその組織のこと。

^{**}市民意識調査とは、2005年(平成17年)に実施した福山市のめざすべき将来像やまちづくりの在り方などについて市民の意向やニーズを把握するための市民アンケートのこと。

度、自分や家族の健康、介護、家計、子どもの将来、地震・台風などの災害等に不安を感じている市民が多いことが明らかになりました。

こうした中で、今後のまちづくりの考え方として最も意見が多かったものは「安心・安全」であり、次いで「健康・福祉」「活力・にぎわい」「子育て・教育」「自然・環境」などでした。

さらに、今後の福山市のまちづくりにおいて重点的に行うべき取組として、「高齢者福祉の充実」「学校教育」「ごみの減量化・リサイクルの推進」「保健・医療の充実」「雇用の場の確保」などが挙げられ、今後このような市民ニーズを踏まえた施策・事業の展開が必要です。

4 まちづくりの基本的課題

以上のようなこれからの社会展望や特等を踏まえると、今後の福山市の基本的課題は、「拠点性と求心力を備えたまちづくり」「健康でいきいきと安心して暮らせるまちづくり」ということができます。

【まちづくりの基本的課題】

- 拠点性と求心力を備えたまちづくり
- 健康でいきいきと安心して暮らせるまちづくり

本格的な地方分権時代を迎え、自治体や地域は自己決定、自己責任による競争力を求められる時代となっています。一方では、人口減少社会を迎える今日、個性豊かな地域づくりを進め、定住人口や交流人口をいかに増やしていくかということが大きな課題となっています。人がいないところに「まち」は成り立ちません。だれでも安心・安全で環境が整備され、職場のあるところに住みたいと思うはずです。活力や魅力のない

都市には人は住んでみたい、行ってみたいとは思いませんし、企業も事務所や事業所を構えてみたいとは思いません。都市と都市、自治体同士が、いかに良い政策で人や企業をひきつけるか、より良い政策で競い合うところに都市間競争の意義があると考えます。

福山市は、地域特性や合併の経緯などから都市核や複数の地域核を有し、自然環境や産業、歴史的・文化的資源は市域全体に豊富に広がっています。これまでも、50万都市構想の下に、こうした地域の中心となる中心市街地の活性化や各地域の特性を活かした市域の一体的発展のための基盤整備に取り組むとともに、地域資源を活用した施策を展開してきましたが、福山という都市ブランドが全国に十分周知されているとはいえない状況にあります。

このため、今後においては、福山市が瀬戸内の十字路に位置するという優位性を活かすとともに、合併地域を含めた本市の持つ地域資源や潜在能力を更に磨き輝かせ、中国・四国地方の拠点都市としての拠点性と求心力を備えた都市機能の充実と都市アイデンティティーの確立を図っていくことが求められます。

また、福山市は、瀬戸内海の温暖な気候に恵まれ、災害も少ない暮らしやすいまちです。都市規模は、政令指定都市^{*}に準ずる利便性の高い適度な規模のまちであり、政令指定都市に匹敵する都市機能を有した中国・四国地方の拠点都市としての可能性を秘めたまちでもあります。こうした資質を活かし、住んでみたい、行ってみたいまち、そしてすべての市民が福山市に住んで良かったと思えるような安心していきいきと快適に暮らせるまちづくりを推進していく必要があります。

^{*}政令指定都市とは、地方自治法に定められた大都市に関する特例が与えられ、大都市としてふさわしい相応の権限や財源を保有することができる市のこと。

(参考)

社会展望

- ・グローバル社会
- ・少子高齢化の進行と人口減少社会
- ・高度情報化社会
- ・安心・安全が重視される社会
- ・市民と行政が協働する社会
- ・ソフト重視の経済社会
- ・循環型社会
- ・雇用形態が多様化する社会
- ・自治体の政策能力や改革が求められる社会

福山市の特性

強み

- (広域的な視点)
- ・広域交通網による国内外への優れたアクセス
 - ・県境を越えた近隣市町との連携による地域力の発揮 など
- (社会経済状況)
- ・大手メーカーやオンリーワン、ナンバーワンなどの特色ある企業の集積
 - ・充実した子育て支援環境
 - ・都市内分権の拠点となる1小学校区1公民館 など

弱み

- (広域的な視点)
- ・中心市街地の空洞化
 - ・観光客数の伸び悩み など
- (社会経済状況)
- ・人口増加の停滞による都市活力の低下のおそれ
 - ・世帯当たり人員の減少や単独世帯等の増加など、コミュニティの機能低下のおそれ
 - ・事業所数、従業者数の減少
 - ・弱い卸売機能 など

強みを活かし、弱みを克服するまちづくり

市民のニーズ

今後のまちづくりの考え

- 将来像
「安心・安全」「健康・福祉」「活力・にぎわい」「子育て・教育」「自然・環境」が多い

今後のまちづくりで重点的に行うべき取組

- 今後の重点的な取組
「高齢者福祉の充実」「学校教育」「ごみの減量化・リサイクルの推進」「保健・医療」「雇用の場の確保」「防犯対策」「子育て支援」などが多い

基本的な課題

拠点性と求心力を備えたまちづくり

健康でいきいきと安心して暮らせるまちづくり

構 想

1 まちづくりの基本理念

福山市では、1979年(昭和54年)に策定した第一次総合計画において“人間環境都市”を都市建設の理念として掲げ、第二次総合計画、第三次総合計画においてもまちづくりの基本理念とし、引き続き、その実現に向けて取り組んできました。

まちづくりの基本理念は、市民や事業者、行政などの多様な主体が協働してまちづくりを進める上で最も基本的な考え方となるもので、いつの時代にも欠くことのできない、福山市のまちづくりにおける普遍の目標です。

「市民一人ひとりの人権が大切にされ、住みやすさ、働きやすさが保障される人間主体の都市 福山」

これからの新しい時代においてもこの基本理念を大切に、引き続き、その実現を念頭に置いて、まちづくりを推進します。

【まちづくりの基本理念】

人間環境都市

- 生命の尊厳と人類の共存を基本とする恒久平和の維持
- 何人も侵すことのできない永久の権利である基本的人権の尊重
- 市民本位の行政の推進

2 将来都市像

福山市は、将来都市像を

**にぎわい しあわせ あふれる躍動都市
～ばらのまち 福山～**

【目標年次：2016年度(平成28年度)】

とし、市民とともにその実現に努めます。

私たちのまち福山は、瀬戸内沿岸の中央部に位置し、温暖な気候と瀬戸内海国立公園を始めとする海、山、川の豊かな自然と恵みを受け、住みやすい環境にあります。また、万葉の昔から潮待ちの港として有名な鞆の浦や福山城を始めとする多様な歴

史と文化、ばらのまちづくり、更には特色ある技術やノウハウを持つオンリーワン、ナンバーワン企業が数多く立地し、琴、はきもの、備後緋など伝統的な地場産業を有するなど、豊富な資源に恵まれています。そして、山陽自動車道や西瀬戸自動車道(瀬戸内しまなみ海道)を始め山陽新幹線のぞみ号も停車するなど、高速交通網の結節点として拠点性が高く、更に福山港を始めとするアジアに開かれた港湾機能など物流拠点としての利便性を有する都市です。中国横断自動車道尾道松江線が整備されると、山陽、山陰、四国地方を結ぶ交通結節点としての役割は、ますます高まることが予測されます。しかし、現在、このような福山市の有する優れた資源や優位性は十分に活かされているとはいえません。

社会が成熟し、交通や通信技術などの飛躍的な発展により世界規模で一体化が進むとともに、社会経済全般において競争力が求められる時代になっています。このような時代だからこそ、福山市が持つ資源やまちの魅力を活かして、福山ならではの産品や産業の集積、都市文化などを戦略的に国内外に積極的に発信しアピールすることが必要です。

福山市ならではの資源や特徴を活かし、福山の活力や魅力が高まることで、住む人はまちに誇りを持ち、訪れる人は増え、定住人口や交流人口の増加にもつながります。私たちは、市民や企業、団体、そしてまち全体が、共通認識の下に創意と工夫を重ね、福山をアピールし、にぎわいがあり拠点性と求心力を持ったまちづくりにチャレンジすることにより、輝く未来に向かって夢のある、中国・四国地方の拠点都市にふさわしい躍動するまちづくりを進めます。

また、市民生活においては、多くの市民が福山市に今後も住み続けたいとしている反面、健康や子どもの将来、災害などに不安を感じている市民も少なくありません。だれもが健康でいきいきと安心して安全に暮らせるまちづくりを行うとともに、未来の地域を支える子どもたちが生きる力や創造性を発揮できるような人材を育成することが今後のまちづくりには重要です。

私たちは、戦争で荒廃したまちに、復興

と平和への願いを込め、市民が一本一本空き地にばらを持ち寄って植えたばらのまちづくりが、今では多くの市民と行政の参画により、一大イベントである福山ばら祭へとつながっていったという歴史を持っており、それが福山の協働のまちづくりの原点です。

そして、にぎわいと活力のある福山で、健康で安心していきいきと暮らし、住んで良かったとしあわせを実感できる全国に誇れる自主・自立のまちづくりを、市民と行政がそれぞれの責任と役割を分担し、対等な立場で連携し、補完し協力し合いながら、共通の目的を持って推進していきます。

3 まちづくりの基本方針

21世紀になり、社会経済の変化は、ますますその加速度を増すとともに、人口減少社会へ突入するなど、私たちがこれまで経験したことのない時代の到来を予感させます。こうした時代だからこそ、自立した持続的発展力のあるまちづくりを行っていかねばなりません。

私たちのまち福山は、2006年(平成18年)7月1日に市制施行90周年を迎えました。これを契機に、この基本構想を「市制100周年に向けた新たなまちづくりの指針」と位置付け、市民とともに

～ チャレンジふくやま 新たな創造と飛躍 ～

をキャッチフレーズとして、次の基本方針の下に将来都市像の実現に努めます。この基本方針は、施策の大綱やそれに基づく施策を展開するに当たっての基本的な視点であり共通の考え方になるものです。

①「協働のまちづくり」を実践し、 地域力を高める

「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市 ～ばらのまち 福山～」の実現のためには、お互いの人権を尊重し、市民と行政がそれぞれの責任と役割を分担し、対等な立場で協力し合い、自分たちのまちのことを考え、自分たちでできることから始める「協働のまちづくり」を実践することが何より大切です。

今後、人口減少社会や少子高齢社会の進行といった社会環境の中、心豊かに楽しみとゆとりを持って生活できる社会の実現とともに、更に充実した取組が求められる福祉、健康、防災・防犯、環境、教育等の分野や外国人など文化の異なる人への対応も地域で支え合うことが必要です。

このため、市民が積極的に社会参加、社会貢献できるように支援するとともに、市民の自己実現も含む市民満足度の高い協働のまちづくりを実践し、地域力を高めていきます。

②地方分権時代に対応した 「自立」したまちづくりを進める

「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市 ～ばらのまち 福山～」の実現のためには、本格的な地方分権時代に対応した自主・自立のまちづくりを進めていくことが求められます。

地域づくりは、国家政策から地方独自の創意工夫へと移行しつつあり、自治体や地域のより確固たる自己決定と自己責任が求められる時代になっています。地方の自立・独創性により、自らその活力を創造していくことが重要です。

このため、真の意味での地方自治の確立に向け、行政を始め多様な主体による政策立案機能、事業遂行機能を高めることが必要です。そして、地域の課題は地域で主体的に解決できるよう、自治会・町内会を始めとした住民組織が活動しやすい環境づくりを行うとともに、住民自治の拠点となる支所などへの分権を進め、地域としてまた都市としての自立を図ります。また、福山を中心とする都市圏全体が自立して一体的発展ができるよう、政令指定都市に匹敵する都市機能を有した中国・四国地方の拠点都市として、より広域的な責任と役割を果たしていきます。

③「人づくり」を進め、 新たな文化や産業などを創造する

「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市 ～ばらのまち 福山～」の実現のためには、人づくりを進めることが重要です。

人の交流がより活発化する中で、多様な価値観を認め合うとともに国際感覚や人権

感覚豊かな主体性のある人材の育成が求められています。そのためには、幼児期から青年期にかけての学校教育、更に高齢期にかけての長期にわたる生涯学習のほか、地域から様々なことを学ぶ地域学習、職業を通じた研修・体験等により、視野を広く持ち、創造意欲に満ちた福山市の将来を担う人づくりを進めることが重要です。

このため、まちづくりの原点である人づくりを進め、様々な課題を克服するとともに新たな文化や産業などを創造していきます。

④福山を積極的・継続的に発信し、「都市ブランド力」を高める

「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市 ～ばらのまち 福山～」の実現のためには、“ばらのまちづくり”を始め、瀬の浦や福山城などにある数多くの歴史的・文化的資源や特色ある技術を持つ企業の集積といった福山市の魅力を積極的に国内外に情報発信していくことが必要です。

地方分権の進展等により、都市間競争が激しさを増す中、都市の盛衰は、その都市が持つブランド力にかかっているといても過言ではありません。

このため、他の都市とは異なるキラリと光る「福山」を創出し、中国・四国地方の拠点都市として、その魅力を多くの分野において、あらゆる機会をとらえて、積極的・継続的に発信していきます。

4 まちづくりの基本目標と施策の大綱

(1) まちづくりの基本目標

福山市は、「にぎわい しあわせ あふれる躍動都市 ～ばらのまち 福山～」を実現するために、「協働のまちづくりの実践」「自立したまちづくり」「人づくり」「福山の発信」を施策展開の基本方針とし、次の「まちづくりの基本目標」の下にまちづくりを推進していきます。

基本目標

- ①だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち(安心・安全・環境)
- ②子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち(保健・福祉・医療)
- ③多様に学び、文化をはぐくむまち(教育・文化)
- ④産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち(活力・交流)
- ⑤市民とともにつくる自立したまち(協働・行革)

(注)()内は主要な政策分野

- 基本目標の第1は安心・安全・環境です。すべての人の基本的人権が尊重され、生命や財産が守られ、自然と共生した快適な環境の中で暮らすことは、まちづくりの基本であり、福山市は「だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち」をめざします。
- 基本目標の第2は保健・福祉・医療です。少子高齢社会において、すべての人が生涯健康で生きがいを持ち、幸せな人生を送り、また、家庭や地域で子どもが健やかに育てられる社会は市民共通の願いであり、福山市は「子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち」をめざします。
- 基本目標の第3は教育・文化です。人づくりはまちづくりの原点ともいわれ、すべての人が生涯を通じていつでも、どこでも学ぶことができる社会は、自己実現だけでなく、これからの地域を支える力となります。また、国際化に対応して異文化理解を図るとともに、福山市独自の地域文化を育て、新たな文化を創出することは、まちへの愛着と誇りにつながります。福山市は「多様に学び、文化をはぐくむまち」をめざします。
- 基本目標の第4は活力・交流です。産業はまちの活力の源泉です。活力ある産業は地域を元気にします。福山には優れた技術力や伝統を持つ産業や、オンリーワン、ナンバーワン企業の集積、アジアに広が

る港湾機能, 高速交通網の結節点などの優位性があります。多様な地域資源を更に発掘し, 磨き, 有効に活用し, 福山らしさとして発信することが地域の発展にもつながります。また, 中国・四国地方の拠点都市の玄関口にふさわしい風格ある中心市街地の整備や交流基盤の整備を推進することが, 新しい文化を生む契機となります。福山市は拠点性と求心力のある「産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち」をめざします。

- 基本目標の第5は協働・行革です。まちづくりは市民や団体, 企業等と行政とのパートナーシップ精神により, お互いが信頼し, 知恵を出し, 力を合わせて協働により進めていくことが必要です。また, 行政にあっては, 健全で効率的な都市経営とともに, 広域的な連携の中で行政運営を進めていくことが必要です。福山市は「市民とともにつくる自立したまち」をめざします。

【5つの基本目標が相互に連携して将来都市像を支えるイメージ】



(2) 施策の大綱

福山市は、「5つの基本目標」の下に、次のとおり施策の大綱を掲げ、各種施策・事業を推進していきます。

この「施策の大綱」は、「将来都市像を実現するための施策の基本的な枠組み」となるもので、基本計画においてより詳細な施策体系が編成され、これに沿って事業の展開が図られることとなります。

① だれもが安心して安全で快適に暮らせるまち

- すべての市民がお互いの人権を尊重し、個性を認め合い、支え合う社会はまちづくりの基本であり、人が人として尊重され、個性と能力が発揮できる社会や男女共同参画社会の実現をめざすとともに、恒久平和の維持に向けた啓発活動を推進します。
- 「地域の安全は地域で守る」を基本に、危機管理意識の高揚を図るとともに、防災対策の充実や防犯活動の推進など、市民や団体と行政が協働する中で、安心して安全に生活できるまちづくりを進めます。
- 自然環境や森林の保全を図り、良好な景観やみどりのまちづくりなど、自然と調和した潤いのある空間の形成と、道路、上下水道や公共交通の維持確保など、快適な市民生活を支える生活基盤の充実を図るとともに、地球環境に配慮した循環型社会の形成を市民と協働して進めます。

【基本施策】

- ・人間としての尊厳や自由を尊重する人権文化が根付いた地域社会の実現
- ・安心して安全に生活できる地域社会づくりの推進
- ・自然と調和したうるおいとゆとりのある環境と景観の形成
- ・快適な暮らしを支える生活基盤の整備
- ・地球にやさしい環境づくりと循環型社会の形成

② 子どもが健やかに育ち、だれもが健康でいきいきと暮らせるまち

- 急速に少子高齢社会が進む中で、福山市における充実した子育て支援環境などのメリットを活かし、地域社会全体で子育て家庭を支援し、子育てを楽しいと感じられる環境づくりを進めます。
- 長寿を謳歌できる「活力あふれる豊かな高齢社会」の実現に向け、高齢者の人権が尊重され、健やかで自立し、安心して暮らせる共生のまちづくりを進めるとともに、「ノーマライゼーション*」と「リハビリテーション*」の理念の下、障がいのある人の人権が尊重され、互いに支え合い、生きる喜びがあふれる共生のまちづくりを進めます。
- 安定した社会保障制度を維持し、子どもから高齢者まですべての市民が、たとえ病気や障がいがあっても社会参加ができ、生きがいを持ち、生涯を通じて健康で心豊かな生活が送れるよう保健・福祉・医療の充実に努めます。

【基本施策】

- ・子どもが健やかに生まれ育つ環境づくりの推進
- ・高齢者の豊かで実りある生活を支えるまちづくりの推進
- ・障がいのある人の自立と安心を支えるまちづくりの推進
- ・いきいきと暮らせる健康づくりの推進
- ・だれもが安心して生活できる社会保障制度の適正な運営

③ 多様に学び、文化をはぐくむまち

- まちづくりを支えるのは「人」です。このため、明日の地域を担う子どもたちが自分を輝かせ、自分の力を最大限に発揮できるよう、生きる力と豊かな人間性を学校や家庭、地域と連携して育成するとともに、子どもから高齢者までだれもがライフステージ*に応じて健康でいきいきと学ぶことができる生涯学習の環境づくりを推進します。
- 長い歴史の中で創造され、はぐくまれてきた各地域の個性ある文化や歴史資産の継承と活用を図るとともに、市民の自主的、個性的な文化活動の支援などにより、新たな福山文化の創造に努めます。
- 市民が生涯にわたり、心身の健康を増進し、生きがいを持って生活できるよう、スポーツ活動の推進を図ります。

【基本施策】

- ・しっかりと学び豊かな心をはぐくむ学校教育の充実
- ・楽しく集い学びの輪を広げる生涯学習の推進
- ・個性あふれる地域文化の継承と創造
- ・健やかな心と体を培うスポーツ活動の推進

*ノーマライゼーションとは、障がいのある人や高齢者などすべての人々が社会の中で普通の生活や活動ができるようにすること。

*リハビリテーションとは、障がいを持つ人々に対して、障がいの回復治療を施し、残された能力を最大限に高め、可能な限り自立した生活ができるように援助すること。

*ライフステージとは、年齢に伴って変化する人生の各場面のこと。

④ 産業の力みなぎる活力とにぎわいのあるまち

- 産業はまちの活力の源泉です。このため、本市の持つ、多種多様な製造業やオンリーワン、ナンバーワン企業が集積している特長を活かし、新産業の創出と産業の活性化を図ります。
- 産業や交流の基盤である福山道路を始めとする幹線道路網の整備促進や福山港を始めとする物流機能の強化を図ります。
- 中国・四国地方の拠点都市の玄関口にふさわしい拠点性と求心力のある中心市街地の整備や商業振興を推進します。
- 鞆の浦や福山城に代表される多様な観光資源、自然、歴史・文化、更には産業など特色ある地域資源等のメリットを活かし、より一層の観光振興を推進します。
- 若年者、障がい者などの就職支援を始め、退職した団塊の世代の人材の活用、子育てと仕事の両立や子育て後の再就職の支援など、やりがいと夢のある就業環境づくりを進めます。
- 豊かな生活環境の創出や生産基盤の整備に努め、地域特性を活かした農林水産業の振興を図ります。
- 福山らしさの創出と積極的な発信を通じ、活力と魅力があり、全国に誇ることができるまちをめざします。

【基本施策】

- ・独自技術で明日をひらく工業振興と新産業の創造
- ・人、モノ、情報が行き交う交流拠点機能の強化
- ・拠点性と風格のある中心市街地の整備
- ・にぎわい楽しむまちを演出する商業の振興
- ・地域資源で人をひきつける観光の振興と交流の促進
- ・やりがいをもち夢かなえる就業環境づくりの支援
- ・地域特性を活かした農林水産業の振興
- ・福山らしさの創出と発信

⑤ 市民とともにつくる自立したまち

- これからのまちづくりは、行政のみならず、市民や地域の団体・企業などのパートナーシップ精神により、お互いに考え、力を合わせて協働により推進していくことがより重要です。そのため市民参加の前提となる情報の積極的な公開や広報・広聴機能の充実を図るとともに、他市にない1学区1公民館という福山市の特徴を活かして身近なまちづくり活動を支えるコミュニティづくりの推進に努めます。
- 地方分権時代に対応した都市行政を推進するため、健全で効率的な行財政運営を推進するとともに、中国・四国地方の拠点都市としての役割と責任を果たすための機能の充実と広域的な連携を推進します。

【基本施策】

- ・都市内分権の推進と市民と行政との協働による自立した都市の確立
- ・自立を持続する健全な行財政運営の推進
- ・中国・四国地方の拠点都市にふさわしい広域行政の推進

●第四次福山市総合計画後期基本計画策定経過

年月日	市民等	議会	市
2010年(平成22年) 8月22日	○子ども議会議員アンケート調査		
9月24日			○第1回長期総合計画策定委員会 幹事会
9月27日			○第1回長期総合計画策定委員会
11月19日		○総務委員会 ・後期基本計画策定について	
11月22日～12月6日	○市民アンケート調査		
2011年(平成23年) 1月8日	○第1回高校生・大学生 ワークショップ		
1月22日	○第2回高校生・大学生 ワークショップ		
1月22日～1月23日	○市外の人を対象としたイン ターネット調査(アンケート)		
1月29日	○第3回高校生・大学生 ワークショップ		
2月3日			○第2回長期総合計画策定委員会 幹事会
2月9日			○第2回長期総合計画策定委員会
2月21日		○総務委員会 ・市民アンケート調査結果, イン ターネット調査結果, 高校生・大 学生ワークショップ結果の報告	
3月22日			○後期基本計画策定に向けた職 員研修
6月14日			○第3回長期総合計画策定委員会 幹事会
6月24日	○基礎調査報告書の公表	○基礎調査報告書の配付	○基礎調査報告書の作成
8月5日			○第4回長期総合計画策定委員会 幹事会
8月8日			○第3回長期総合計画策定委員会
8月29日		○総務委員会 ・後期基本計画(素案)の報告 ・パブリックコメントの実施につ いて	
9月7日～10月6日	○後期基本計画(素案)に対する パブリックコメント		
10月28日			○第5回長期総合計画策定委員会 幹事会
10月31日			○第4回長期総合計画策定委員会
11月22日	○後期基本計画(素案)に対する パブリックコメントの結果の 公表	○総務委員会 ・後期基本計画(素案)に対する パブリックコメントの結果, 後 期基本計画(案)の報告	
12月20日			○後期基本計画策定

福山市子ども議会

開催の目的	将来の福山市を担う小・中学生に自分たちの住むまちへの希望や期待, 自分たちができることなどを発表することにより, 市政や議会の仕組みに対する関心と理解を深めてもらうことを目的とする。
参加者	子ども議員数: 47人(小学校5年生~中学校3年生までの児童生徒)
開催時期	2010年(平成22年) 10月31日

質問内容

→ : 関連する項目

- 1 環境委員会
 - (1) 「芦田川の水質」と「まちの緑」について → 1章3節1項 良好な環境と景観の形成
 - (2) 家庭から出るごみについて → 1章5節1項 自然と共生する低炭素・循環型社会の構築
- 2 文教委員会
 - (1) 平和について → 1章1節1項 人権文化が根付いたまちづくり
 - (2) 子どもたちの読書活動について → 3章1節1項 学校教育の充実
- 3 安心・安全委員会
 - (1) 地産地消について → 2章4節1項 健康づくりの推進
→ 4章7節1項 農林水産業の振興
 - (2) みんなが安心して自転車に乗れる町づくりについて → 1章4節2項 暮らしを支える地域交通の確保
- 4 福祉委員会
 - (1) 地域での交流とボランティアについて → 5章1節1項 協働と住民自治の推進
 - (2) 障がい者の働く場について → 2章3節1項 障がいのある人の自立と安心を支えるまちづくり
- 5 協働のまちづくり委員会
 - (1) 100万本のばらのまちづくりについて → 4章8節1項 訪ねてみたいまちづくり
 - (2) 市民の協力・絆の輪を広げるための取組について → 5章1節1項 協働と住民自治の推進

これまでに子ども議員の提案を受け市政に反映されたもの

- ・二上りおどりの保存継承DVDの作成, 配布 (※2010年1月) → 3章3節1項 地域文化の振興
- ・ふくやま地産地消の日の制定 (毎月29日「ふくの日」 ※2011年4月から) → 2章4節1項 健康づくりの推進
→ 4章7節1項 農林水産業の振興
- ・お薦め本リストの作成(※2011年7月) → 3章1節1項 学校教育の充実
→ 3章2節1項 生涯学習の推進
- ・福山市ゆかりの人物の漫画本の制作 (※2012年度制作予定) → 4章8節1項 訪ねてみたいまちづくり

福山市子ども議会議員アンケート結果

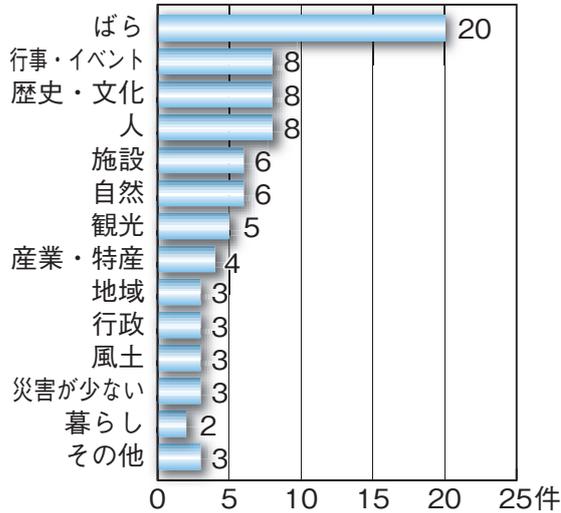
●回答者数

44名(小学5年生 1名,小学6年生 32名,中学2年生 3名,中学3年生 8名)

●福山市の好きなおところ,嫌いなおところ

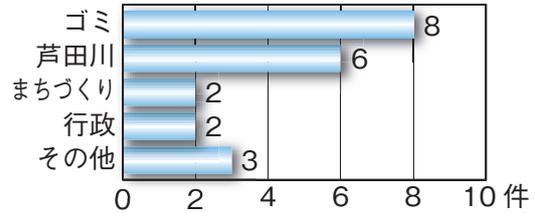
好きなおところ

(複数回答)



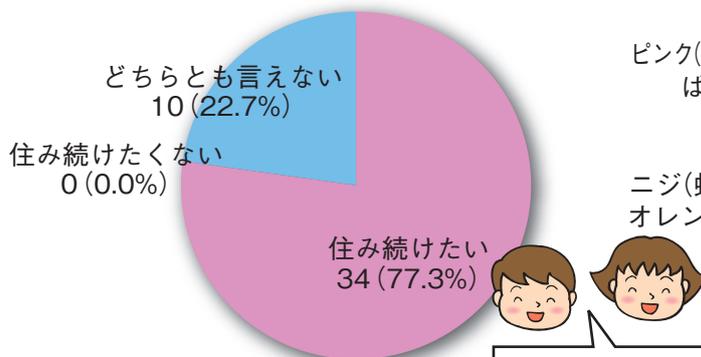
嫌いなおところ

(複数回答)

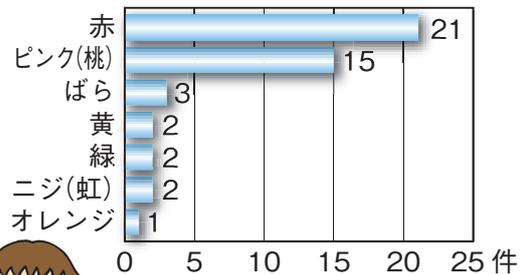


※無回答が最多

●福山市に住み続けたいか



●市のイメージカラー



【住み続けたい理由】

- ・住みなれたまちだから
- ・ほっとするまちだから
- ・人がやさしいまちだから

●どんなまちにしたいか,どんなことをすればよいか

どんなまちにしたいか	どんなことをすればよいか
・ばらがたくさんあるまち など …… 11件	・ばらを増やす など …… 7件
・人が協力して,助け合うまち など …… 9件	・いいところをPRする など …… 7件
・子どもから高齢者までだれもが住みよいまち など …… 8件	
・たくさんの人が観光にきてくれるまち など …… 7件	

➡ :関連する項目

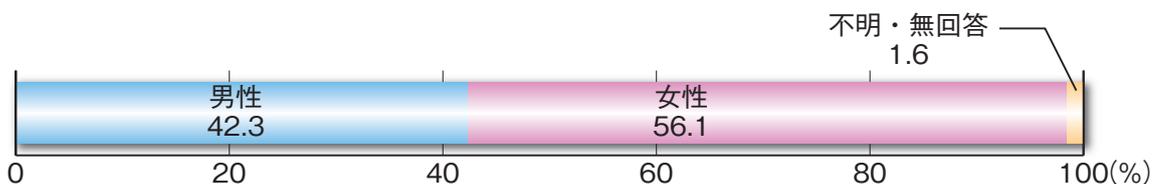
- ➡ 4章5節1項 観光の振興
- ➡ 4章8節1項 訪ねてみたいまちづくり

福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート調査

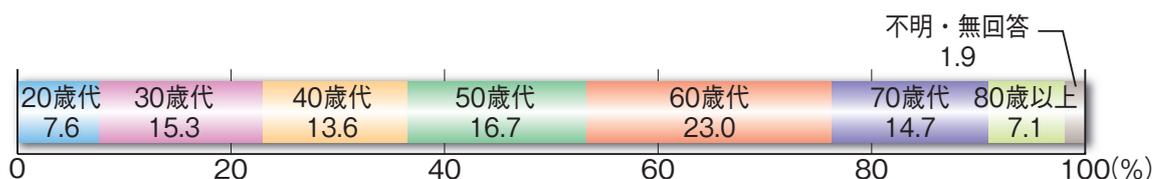
調査の目的	これからの時代に対応したまちづくりを行うため、市民の意向やニーズを把握し、後期基本計画に反映させることを目的とする。
調査対象	福山市に住民登録されている20歳以上の男女から3,000人を無作為に抽出
調査方法	郵送による調査票の配布・回収
実施期間	2010年(平成22年) 11月22日(月)～12月6日(月)
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ■まちづくりに対する関心や福山らしさなどについて ■市役所サービスなどに対する満足度・重要度について ■将来の不安について ■地域の活動、市民と市役所の役割分担について ■福山市への定住意向について ■回答者の属性 ■福山市がめざすべき将来像やまちづくりのあり方などに関する自由意見
有効回収数	1,232件(回収率41.1%)

回答者の属性

●性別



●年齢



●居住地域

地域	件数 (件)	割合 (%)
中央	450	38.5
東部	228	19.5
西部	87	7.5
南部	97	8.3
北部	178	15.2
北東	129	11.0
計	1,169	100.0
不明・無回答	63	

(中学校区)

中央…東, 城北, 城南, 鷹取, 幸千, 済美, 中央, 誠之, 城西

東部…城東, 鳳, 培遠, 大門, 一ツ橋, 東朋

西部…大成館, 松永, 精華

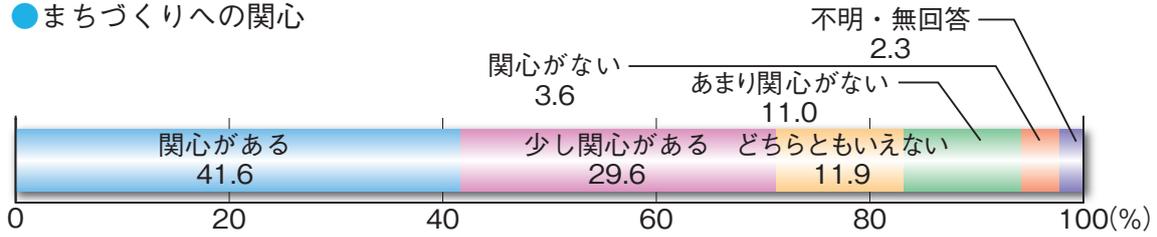
南部…向丘, 鞆, 走島, 至誠, 千年, 内海

北部…芦田, 山野, 広瀬, 加茂, 駅家, 駅家南, 常金, 新市中央

北東…神辺, 神辺東, 神辺西

調査結果の概要

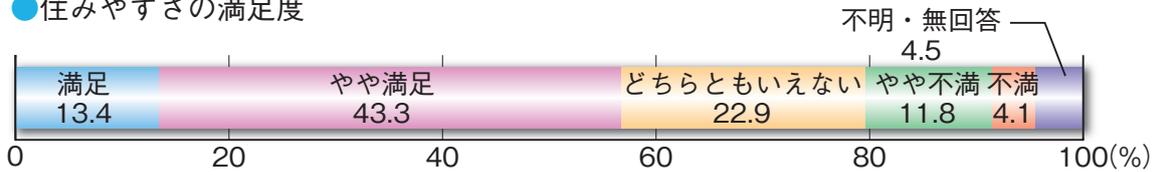
●まちづくりへの関心



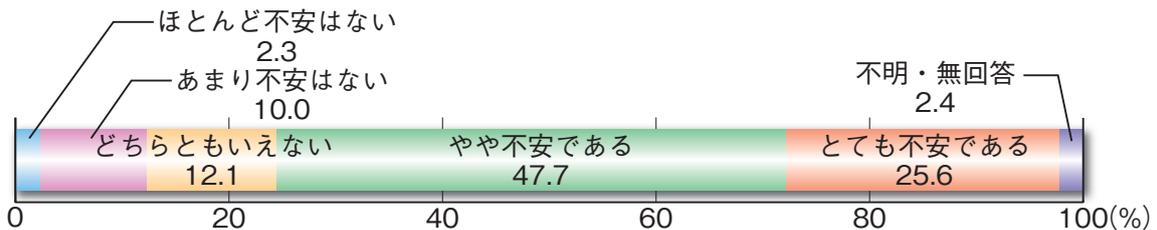
●「福山」をイメージするもの (複数回答)

順位	イメージ
1位	ばら・ばら祭 (71.8%)
2位	鞆の浦 (56.0%)
3位	福山城 (37.9%)
4位	鉄・製鉄所 (21.1%)
5位	気候のよさ (19.4%)
6位	芦田川 (16.6%)
7位	くわい・鯛・ぶどう (11.0%)
8位	海・瀬戸内海 (10.6%)
9位	福山琴・琴 (8.3%)
10位	交通の便のよさ (6.2%)

●住みやすさの満足度



●将来(今後10年後)に対する不安



・不安の内容(上位5項目) 回答者数:903人(複数回答)

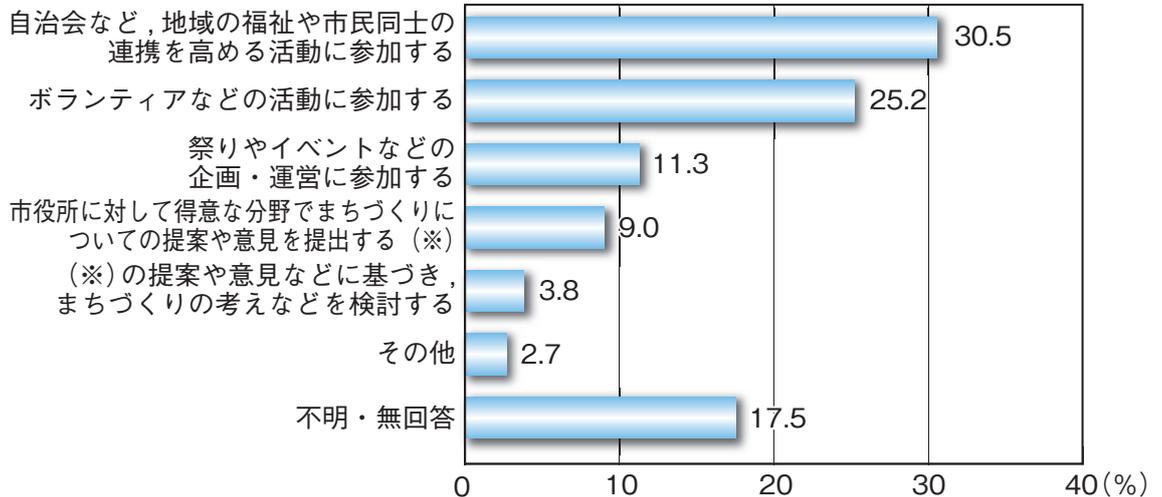
順位	内容
1位	年金などの社会保障制度 (49.1%)
2位	自分の健康や介護 (34.6%)
3位	家族の健康や介護 (31.2%)
4位	仕事や雇用のこと (21.9%)
5位	家計の収入のこと (19.4%)

●参加したいまちづくり分野(上位8項目)

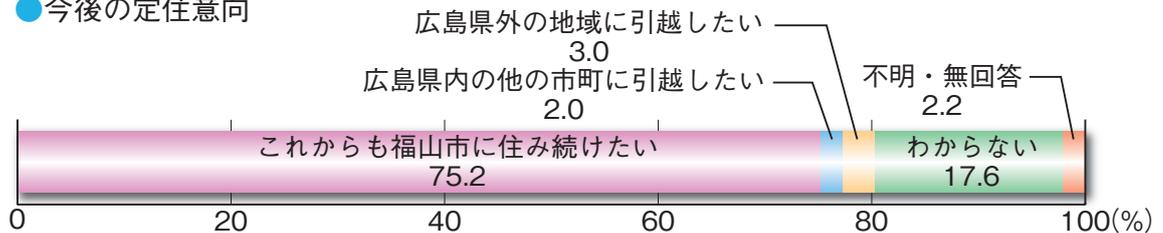
(複数回答)

1位	健康づくり	25.9%	5位	スポーツ・レクリエーション	12.9%
2位	高齢者の福祉	22.1%	6位	地域の安全や防災	11.7%
3位	自然保護・環境問題	15.4%	7位	学校教育・生涯学習	10.7%
4位	子育て支援	15.1%	8位	地産地消	10.4%

●まちづくりへの参加方法



●今後の定住意向



●福山市がめざすべき将来像やまちづくりのあり方などに関する主な自由意見(上位20項目)

主な意見	件数(件)
観光振興の充実	92
道路の整備・充実	65
駅前整備, 市街地の整備	51
高齢者福祉サービスや施設の充実	43
行政サービスの向上	43
効率的な財政運営	39
学校教育の向上	38
子育て支援の充実	35
市民参加のまちづくりの推進	33
河川などの自然環境, 景観の保全	33
地域の活動や交流の活性化	32
公園や緑地の整備	27
バス交通の整備・充実	25
商工業など産業の振興	25
ばらのまちづくりの充実	24
歩道など交通安全施設の整備	22
防犯対策の強化など安全なまちづくりの推進	20
社会保障の充実(年金など)	20
下水道の整備	18
雇用の充実	17

インターネット調査

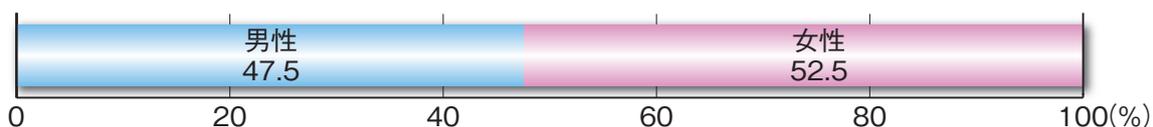
調査の目的	福山の魅力を内外に発信し、都市ブランド力向上のため、市内だけでなく、市外から幅広く意見を聴取し、福山市に対する認知度や意向、ニーズを把握することを目的とする。
調査対象	福山市を除く全国の20歳以上の男女1,000人
調査方法	インターネット活用による調査
実施期間	2011年(平成23年) 1月22日(土)～1月23日(日)
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ■福山市の認知度, 来訪経験, 来訪意向について ■福山市と聞いて思いうかべるものについて ■福山市への移住意向について

回答者の属性

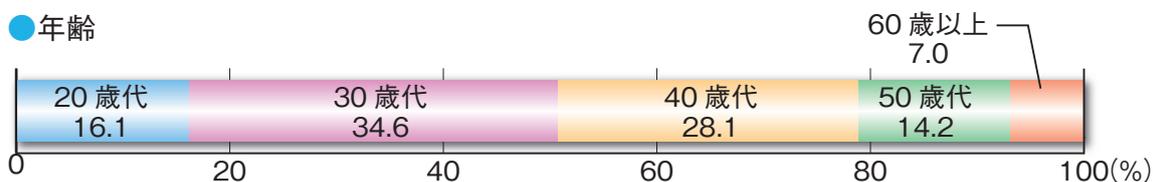
●居住地

地域	回答者(人)	割合(%)
広島県内(福山市を除く)	206	20.0
中国地方(広島県を除く)	206	20.0
近畿地方	155	15.0
九州地方	155	15.0
四国地方	155	15.0
北海道, 東北地方, 関東地方, 中部地方	155	15.0
合計	1,032	100.0

●性別

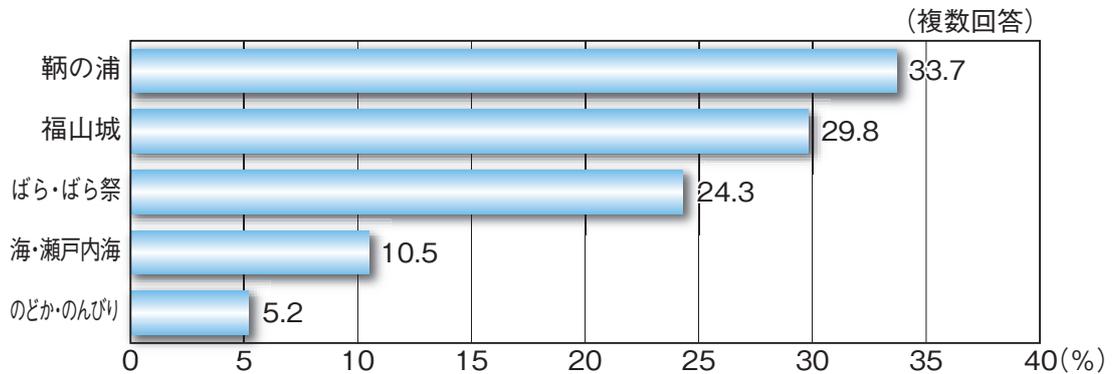


●年齢

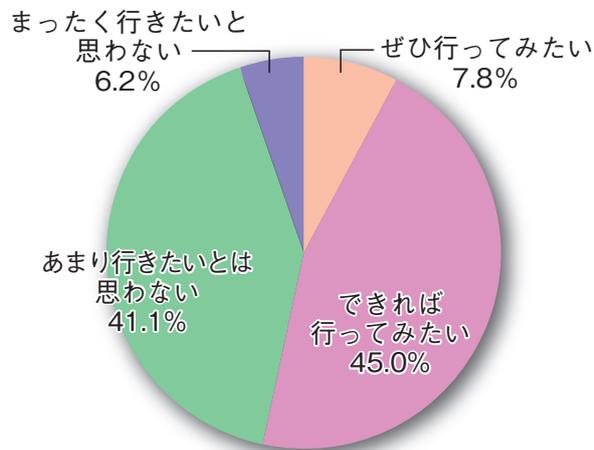


調査結果の概要

●「福山市」と聞いて思い浮かべるもの(上位5項目)



●観光やレジャー、ビジネスなどによる「福山市」への来訪意向



●福山市に行きたい理由(上位7項目)

回答者数:544人(複数回答)

1位	自然景観が魅力的だから	35.5%
2位	名所旧跡が魅力的だから	27.4%
3位	観光地やレジャースポットを回遊して楽しめるから	17.1%
4位	まつりがある(楽しい)から	16.4%
5位	JRやバスなど公共交通機関が利用しやすいから	13.1%
6位	坂本龍馬のゆかりの地だから	9.9%
7位	街並みがきれいだから	7.9%

●福山市に行きたいと思わない理由(上位7項目)

回答者数:488人(複数回答)

1位	福山市についての情報が少ないから	42.0%
2位	観光地やレジャースポットが少ない(知らない)から	39.8%
3位	名所旧跡に魅力がないから	8.4%
4位	交通の利便性が悪いから	8.0%
5位	街並みに魅力を感じないから	7.2%
6位	非日常性を感じられないから	7.0%
7位	観光施設の設備や内容がよくないから	4.9%

高校生・大学生ワークショップ

開催の目的	将来の福山市を担う高校生・大学生が意見交換を行いながら、未来のまちづくりについて考え、意見やアイデアを提案し、まちづくりに参画する機会とともに、その結果を後期基本計画に反映することを目的とする。
参加者	高校生:42名(福山市立福山高等学校) 大学生:33名(福山市立女子短期大学, 福山大学, 福山平成大学)
開催時期	2011年(平成23年) 1月8日(土), 1月22日(土), 1月29日(土)

開催内容

高校生は6グループ、大学生は4グループに分かれてワークショップを実施

開催日	内容
第1回(1月8日)	【高校生】 福山市の好きなところ, 良くしたいところについて 【大学生】 福山市の強み, 弱みについて
第2回(1月22日)	【高校生】 好きなところを増やすには, 良くしたいところに対する必要な取組について 【大学生】 強みを伸ばし, 弱みを改善するために必要な取組について
第3回(1月29日)	【共通】 提案発表「市長になったらどんなまちをつくりたいか」をテーマとした具体的な取組について



高校生・大学生の提案

→ : 関連する項目

区分	～市長になったらどんなまちづくりをしたいか～
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・年間ボランティア計画:活動日が分かるボランティアカレンダーの配布,ゴミ箱設置,まちづくりパスポートを利用した清掃活動 ・ASA～芦田川清掃活動～ ・クリーンアップみんなの芦田川 ・きれいにしよう芦田川 ・ゴミステーション革命:ゴミステーションの整備 <p>芦田川の清掃活動 → 1章5節1項 自然と共生する低炭素・循環型社会の構築</p> <p>ゴミステーションの整備 → 5章1節1項 協働と住民自治の推進</p>
観光・イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・鞆ツアーでございまーす:高校生が鞆のツアープランを立ててガイドする ・ROCK'N'Rose:若者の音楽活動をもっと盛んにする ・FMS～Fukuyama Music Summer～:福山の祭りなどのイベントと連携して野外ライブを行う ・レッツ!ニ上り:高校生・大学生が小中学生にニ上りおどりを教える ・情熱に燃えろ 優雅なばら祭:ばら祭の活性化(CMでPR,高校生が店を出す) ・桜祭り:福山城で大学の模擬店・吹奏楽演奏,商店街の出前販売等(PRイベント)を行う ・福山イルミネーションフェスタ:福山駅前と商店街に毎年テーマにそったイルミネーションを実施 <p>観光の振興 → 4章5節1項</p> <p>訪ねてみたいまちづくり → 4章8節1項</p>
知名度	<ul style="list-style-type: none"> ・広めよう!ばら色の福山を!:Rose-1グランプリ,優秀作品商品化,駅などでの販売により知名度UP! ・Let's make the ばらロード:駅前大通りに中高生がばらの道をつくる ・究極のばらのアクションプラン:ばらを増やし福山城をヴェルサイユ宮殿のようにする ・愛車にばらを!:ばらを形どったナンバープレートの製作 ・Mission G～くわいを喰わんかい～:くわい・ばらを使ったB級グルメ,駅弁開発 ・福山B級グルメ うみやあもんNo.1決定戦:B級グルメとゆるキャラを募集 ・それゆけ!くわいちゃん:特産品のPR,高校生がくわい料理フェスティバルを開催する ・Activeくわいちゃん:福山市の文化などを内容としたくわいちゃんのアニメを作り,全国に広める ・P&P(プロ発信プロジェクト):学生が企画する才能発掘コンテストをする <p>訪ねてみたいまちづくり → 4章8節1項</p>
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・DREAM CATCH:企業と学生の交流(インターンシップ等)を増やす ・SKP～商店街活性化プロジェクト～:空き店舗に大学生が出店し商店街を盛り上げる ・福山革命プロジェクト～良い街を作ろう～:景観・経営・趣味の場になるショッピングモールを増やす ・商店街まるごと大図鑑:学生の授業の一環で商店街のマップを作成し,商店街の情報を発信する ・福山スカイツリー計画:コンセプトを市民から募集したお店を,お城が一望できる場所につくり観光客を増やす ・貯めよう!みんなの笑顔!:商店街クーポン券,ボランティアポイントを利用して,高校生が出店し商店街のにぎわいをUPさせる <p>商業・サービス業の振興 → 4章4節1項</p>
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・まわるまわす福山:レンタサイクルを設置し,市民や観光客に利用してもらう ・痴漢撲滅:朝の通勤・通学ラッシュの際に女性専用車両を設ける <p>暮らしの安心・安全の確保 → 1章2節2項</p> <p>暮らしを支える地域交通の確保 → 1章4節2項</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーイドン!福山:世代を超えた市内運動会を開催する ・国境なき学生交流プロジェクト:学生同士の交流を増やす ・ぼくらからとどけよう!安心プロジェクト!:小中学生がつくった看板やポスターを設置して安全をPRする <p>暮らしの安心・安全の確保 → 1章2節2項</p>

後期基本計画(素案)に対するパブリックコメント

募集期間

2011年(平成23年)9月7日(水)～10月6日(木)30日間

対象者

- (1) 市内に在住, 在勤, 在学している者
- (2) 市内に事務所, 事業所を有する法人その他の団体
- (3) パブリックコメントに係る政策等に利害関係を有すると認められる者

周知方法

広報ふくやま2011年(平成23年)9月号, 福山市ホームページ

閲覧場所

市役所本庁舎(企画課, 市政情報室), 支所, 分所, 分室, 各地区公民館

意見募集結果

- (1) 提出数 15通(団体7, 個人8)
(持参1, 電子メール8, ファックス1, 郵送5)
- (2) 意見の件数 96件
・意見を計画に反映したものの13件
・市の考え方を説明するものの83件
- (3) 項目別意見数 総論20件, 各論76件
- (4) 主な意見等

【意見を計画に反映したもの】

- 「再(Re)の取組」は一般的に通じる固有名詞なのか。また、どのように発音するか分かり難い。

⇒「再(Re)の取組」は、再検討(re-consider)し、再構築(re-construct)・再始動(re-start)させていこうとする本市独自の取組です。用語説明に英字を表示し、発音については「さい(リ)」とルビを記載します。

→ : 関連する項目

- 図表「合計特殊出生率の推移(国・県・市の比較)」の説明に、現在の人口が維持される2.08という数値を目安として入れると、グラフを解釈しやすくなる。

⇒合計特殊出生率の注釈に「現在の人口の維持は2.08が目安となります。」を加えます。

→ 総論2章3 まちづくりの課題

- 「福山らしい地域文化を市民とともにいぐくんでいく必要がある」と「福山らしい」が多く出てくるが、「福山らしい」がイメージできない。「福山ブランド」と置き換えたらどうか。

⇒「ブランド」とは、その言葉でだれもが福山をイメージできるもの、全国に誇れるものを対象に使用するのが適切と考えています。だれもがイメージしやすいように、「福山らしい地域文化」を「個性あふれる福山の地域文化」に修正します。

→ 2章1節1項 子どもが健やかに生まれ育つまちづくり

→ 3章3節1項 地域文化の振興

【市の考え方を説明するもの】

- 福山市は自然災害が少なく恵まれており、その分災害への備えには官民ともに関心が薄い。避難所の指定が図上で示されていても条件を具備していない場合もある。さも整備されているような「見せかけ情報」は非常時に混乱を招くので、平時から整備強化の過程と現況の情報を的確に周知しておく。福山も平野部に低地が多く、集中豪雨による都市型災害として浸水被害が想定される。防災無線の整備、浸水状況をリアルタイムで把握できる「浸水警報システム」の導入等が求められる。

⇒本市では、出前講座や街頭啓発、防災訓練など、あらゆる機会を通じて、市民の防災意識の高揚を図るとともに、耐震対策や浸水対策など、ハード・ソフト両面での防災対策に取り組んでいるところです。また、現在、東日本大震災を踏まえ、避難所や情報伝達手段のあり方など、本市の防災施策の点検・見直しに取り組んでいます。災害を未然に防止し、被害を最小限に抑えるためには、地域住民と行政、関係機関が協働して自助、共助、公助による防災対策に取り組むことが基本であり、これまでも、関係機関と意識の共有を図りながら、防災体制の整備、推進に努めてきたところです。御意見を参考に、引き続き防災施策の充実・強化に取り組めます。

→ 1章2節1項 災害への備えの強化
→ 5章1節1項 協働と住民自治の推進

- 高齢化に配慮するとともに、歩行者を増やすための安全・安心の歩行空間の整備の記述を加えて欲しい。

⇒本市では、すべての人々が安全で安心して利用できる質の高い歩行空間の形成をめざして、歩道のバリアフリー化を進めているところであり、1章2節2項の目標達成のための取組「交通安全対策の推進」の【安全な道路交通環境の整備】や、1章4節2項の目標達成のための取組「生活道路の整備」の【交通安全施設の整備】の中で取り組んでいます。

→ 1章2節2項 暮らしの安心・安全の確保
→ 1章4節2項 暮らしを支える地域交通の確保
→ 2章2節1項 高齢者の豊かで爽やかな生活を支えるまちづくり

- 公共交通網の体系的な中・長期ビジョンの策定がもっと欲しい。福山市域全体を一つの交通体系で考えたらどうか。今後、鉄道、バス、LRT（ライトレール：軽量軌道交通）等の公共交通を中心とした機能を検討して欲しい。

⇒本市の公共交通は、鉄道とバス等によって構成され、鉄道は主に都市間移動、バスは主に都市内移動を担っています。めざすべき交通体系イメージとして、鉄道とバスの連携を視野に入れながら、ゾーンバスシステムの導入により、それぞれの地域別の需要や特性に応じたバスの運行形態を取り入れ、有機的に機能する公共交通体系の確立を図ることとしています。

→ 1章4節2項 暮らしを支える地域交通の確保

- 福山市の日照率は全国的にも高いものと思われる。この天然の恵みを利用し、日本一の太陽光発電地帯の形成をめざし、人間環境都市のシンボルとしたらどうか。

⇒2011年(平成23年)3月に策定した「福山市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」において、太陽光発電システムをはじめとした太陽エネルギー導入を促進することとしています。

→ 1章5節1項 自然と共生する低炭素・循環型社会の構築

- ばらは、福山市民には有名だが、他にはあまり知られていない。福山東ICの料金所付近に大きなばらの模型を設置するのはどうか。駅よりもPR効果が大きいと思う。
⇒「ばらのまち」の具体的なPR方法は、2010年(平成22年)3月に策定した「ばらのアクションプラン」に示しています。また、このプランの中で、みんなの「ばら」100万本プロジェクト事業で植栽にも取り組む予定としています。

→ 4章8節1項 訪ねてみたいまちづくり

- 社会は右肩上がりから右肩下がりへと変化し、市の人口もピークが過ぎた。まちづくりのガイドラインである総合計画も、この点をもっと強調し、量的拡大の時代は終わり「大きさ」から「質」で勝負できるまち、社会からも、産業界からも、市民からも「選ばれるまちになる」ことをめざして良いのではないか。
⇒市制施行100周年までの今後5年間は、事業の選択と重点化による基盤整備を行うことも必要であると考えていますが、市民の皆さんとともに自立したまちを確立していくため、真の住民自治につながる施策を積極的に進めていきます。

→ 5章1節1項 協働と住民自治の推進
5章2節1項 持続可能なまちづくり

用語説明

ア

●ISO14001

環境関連法規を遵守するとともに、環境関連の目的、目標を定め、それを組織的に実現し、継続的な改善を行う仕組みを構築し運営するための国際的な規格のこと。

●ICT（情報通信技術）

Information and Communication Technologyの略で、コンピュータやデータ通信に関する技術のこと。従来のITと同義であるが、コミュニケーションを加えたことで、情報・知識の共有性を念頭に置く表現となっている。

●インターネット調査

福山市を除く全国の20歳以上の男女1,000人を対象に、インターネットを活用して、福山市の認知度や意向、ニーズを把握するために実施したアンケートのこと。2011年(平成23年)1月に実施した。

●運動普及推進員

市民が中心となる健康づくりをめざして、地域に密着した健康づくりの運動の普及、啓発を行う運動ボランティアのこと。

●NPO

Non Profit Organizationの略で、民間非営利団体(組織)と訳される。医療・福祉、環境、災害復興、地域振興など様々な分野の市民運動やボランティア活動などをする団体(組織)のこと。

●NGO

Non-Governmental Organizationの略で、一般に非政府組織と訳される。国際的・地球規模の問題に取り組む環境団体や女性団体等非政府・非営利の組織のこと。

●オムニバスタウン構想

バスへの利用転換を促し、安全で暮らし良い地域の実現をめざすもの。

カ

●完全失業率

15歳以上の働く意欲のある人(労働力人口)のうち、職がなく求職活動をしている人(完全失業者)の割合のこと。

●キャリア教育

児童生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育のこと。

●救命救急センター

極めて重症の救急疾患や外傷に対して、高度な集中的治療を24時間体制で提供できる医療施設のこと。

●勤労者福祉共済事業会員数

中小企業対象の福利厚生事業である共済事業に加入している会員数のこと。

●金融危機

2007年(平成19年)米国の住宅バブル崩壊に端を発し、2008年(平成20年)米国の大手証券リーマン・ブラザーズの経営破綻をきっかけに世界同時株安などを引き起こした世界的な金融危機のこと。

●刑法犯認知件数

警察が被害の届出などで犯罪の発生を確認した件数のこと。

●健康寿命

世界保健機関が提唱した新しい指標で、日常生活を自立して元気に過ごせる期間のこと。

●後期高齢者医療制度

75歳以上の高齢者医療について都道府県を単位とした広域連合で財政運営が行われ、他の医療保険からは独立した制度のこと。

●合計特殊出生率

おおむね、1人の女性が生涯に生む子どもの数に相当するもの。現在の人口の維持は2.08が目安となります。

●高校生・大学生ワークショップ

計画にあらゆる市民の意見を反映させるため、福山市のまちづくりについて、市内の高校生・大学生が意見交換を行いながら、未来のまちづくりについて考え、意見やアイデアを提案したもの。2011年(平成23年)1月に連続3回で、高校生42名(6グループ)、大学生33名(4グループ)で実施した。

●合流式下水道

汚水と雨水を同一の下水管で排除する方式の下水道のこと。(一定以上の大雨が降ると下水処理しきれなくなる場合がある。)

●国際バルク戦略港湾

バルクとはばら積み品のこと。資源、エネルギー、食糧等の安定的かつ安価な輸送を実現するため、大型船舶による一括大量輸送を可能とする港湾を拠点化するもの。2011年(平成23年)、穀物、鉄鉱石、石炭の3分野で計10港が選定され、福山港は「鉄鉱石」の拠点として選定された。

●コミュニティ

人々が、共同して取り組む活動又はその組織のこと。地縁を基礎とする総合的な共同体である地域コミュニティのほか、テーマや趣味などを共有する様々なタイプのコミュニティがある。

●コミュニティビジネス

地域の資源を活用して取り組むビジネスで、利益追求に加えて地域における課題解決やニーズへの対応を図るものこと。

●コンピュータウイルス

インターネット等を介してコンピュータに入り込み、意図的に悪影響を及ぼすように作られたプログラムのこと。

サ

●災害時要援護者

災害などの非常時に自力で避難することが困難で、行政やボランティア、地域の住民による支援が必要な人(一人暮らし高齢者や障がい者など)のこと。

●再生可能エネルギー

自然界で起こる現象から取り出すことができ、一度利用しても再生可能な、枯渇しないエネルギー資源のこと。水力、バイオマス、太陽光、太陽熱、風力、地熱、波力などがある。

●最低居住水準

自立した生活を営む上で、家族人数などに応じて、最低限必要とされている部屋数や広さなどの水準のこと。

●再(Re)の取組

再(Re)の取組は、本市のめざすべき姿を明らかにし、それに向けて、行政の様々な施策を原点に戻って再検討(re-consider)し、再構築(re-construct)・再始動(re-start)させていこうとする取組のこと。

●GDP

Gross Domestic Productの略で、国内総生産と訳される。国内で1年間に新しく生み出された財やサービスの額の総和のこと。

●市民アンケート調査

福山市のめざすべき将来像やまちづくりのあり方などについて、市民の意向やニーズを把握するために、市内の20歳以上の男女3,000人を対象に実施した市民アンケートのこと。「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート」の名称で、2010年(平成22年)11月に実施した。

●循環型社会

廃棄物等の発生を抑制するとともに、再使用や再生利用及び適正な処分を行うことにより、天然資源の消費を少なくし、環境への負荷ができる限り低減される社会のこと。

●食生活改善推進員

「私達の健康は私達の手で」をスローガンに、食を通じた地域の健康づくり活動を推進しているボランティアのこと。

●スクラムふくやま☆エコトライ

住宅用太陽光発電システムなどの導入促進、環境家計簿(ふくやまエコファミリー)の推進、自転車利用の促進などの事業。

●3R (リデュース,リユース,リサイクル)

スリーアールは、ごみのリデュース(reduce 発生抑制)、リユース(reuse 再使用)、リサイクル(recycle 再生利用)の頭文字。循環型社会を形成するための標語であり、資源の有効利用、環境保全の施策の基本となっている。

●政令指定都市

地方自治法に定められた大都市に関する特例が与

えられ、大都市としてふさわしい相応の権限や財源を保有することができる市のこと。

●ゾーンバスシステム

市中心部と乗り継ぎポイントを結ぶ幹線バスから各住宅地などを結ぶ支線バスにつながるシステムのこと。

タ

●地域包括支援センター

高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らせるよう各種相談受付、介護予防ケアプラン作成、権利擁護、介護支援専門員の支援等を行う地域の中核機関のこと。

●超高齢社会

一般的に、総人口における65歳以上の割合が21%以上の社会のこと。(7%以上が「高齢化社会」、14%以上が「高齢社会」)

●TEU

Twenty-foot Equivalent Units (20フィートコンテナ換算)の略。コンテナ船の積載能力やコンテナターミナルの貨物取扱数などを示すために使われる、貨物の容量のおおよそを表す単位のこと。長さが約6mのコンテナが1TEUに相当する。

●低炭素型の社会

温室効果ガスの排出を抑制する社会のこと。「世界全体の温室効果ガス排出量を現状に比して2050年(平成62年)までに半減」という長期目標を見据え、日本は、2008年(平成20年)に「低炭素社会づくり行動計画」を策定した。そこでは長期目標として2050年(平成62年)までに60～80%の排出削減を掲げ、技術の導入や普及、排出量取引やグリーン税制、低炭素型の都市づくりといった手段が述べられている。

●道州制

社会や経済の変化に伴い、現行の府県制の不相当を是正しようとして構想されたもので、数府県を単位とする広域行政体として、道または州を置く制度のこと。

●特別支援教育

障がいのある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する視点から、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。

●都市アイデンティティー

アイデンティティーとは自分が自分であるための独自性、主体性のこと。都市アイデンティティーとは、他の都市とは異なった都市の特性、個性のこと。

●都市公園

都市の防災、環境、景観、健康・レクリエーションなどの機能を担う都市計画施設のこと。街区公園、近隣公園、総合公園、運動公園、風致公園、歴史公園、緩衝緑地など、規模や性格により様々な種類がある。

●都市内分権

地域の課題に対して、地域の団体や市民が連携して主体的に事業を計画し、実施できるようにする仕組みづくりのこと。

●土曜チャレンジ教室

地域の退職教職員などがボランティア講師となり、児童生徒に個別指導を行うもの。児童生徒が苦手教科を克服し、学力向上につなげる福山市独自の事業。市内の小学5年生～中学1年生を対象に2011年(平成23年)から開始した。

ナ

●ニート

就業(家事手伝いを含む)、就学をせず、また、就労に向けた具体的な活動を行っていない人のこと。

●ノーマライゼーション

障がいのある人や高齢者など、すべての人々が社会の中で普通の生活や活動ができるようにすること。

●農商工連携による六次産業化

農林水産業者と商工業者のお互いの「技術」や「ノウハウ」を持ち寄って、新しい商品やサービスの開発・提供、販路拡大等の取組を行うこと。

ハ

●ハイクテック犯罪

コンピュータ技術や電気通信技術を悪用して行う犯罪のこと。

●ベンチャー・サポート・システム

ベンチャー企業に対して技術開発から商品化、販路開拓、資金提供、人材育成の各段階において、効果的な支援を行うための産学官連携による支援体制のこと。

●付加価値額

総生産額から原材料費・燃料費や減価償却費を差し引いたもので、人件費・利子・利潤の合計のこと。

●フリーター

正社員以外のアルバイト、パートタイマー、派遣など非正規雇用形態により生計を立てている人のこと。

●ブロードバンド

光通信を始めとする、高速・大容量の情報送受信を実現する通信ネットワークのこと。

ヤ

●有効求人倍率

公共職業安定所に申し込まれている求職者数に対する求人数の割合のこと。

●ユニバーサルデザイン

すべての人のためのデザインという意味。私たちが生活していく上で性別や年齢・国籍・障がいの有無など、人々の様々な個性や違いを超えて、すべての人が暮らしやすいまちづくり・ものづくり・人づくり・

環境づくりなどを行っていかこうとする考え方や様式のこと。

●要介護

日常生活上、自力では困難なことについて介護が必要な状態のこと。

●要支援

日常生活は何とか自力でできるが、一部支援が必要な状態のこと。

ラ

●ライフステージ

年齢に伴って変化する人生の各場面のこと。

●リハビリテーション

障がいを持つ人々に対して、障がいの回復治療を施し、残された能力を最大限に高め、可能な限り自立した生活ができるように援助すること。

第四次福山市総合計画 後期基本計画

発行日：2012年(平成24年)3月

発行：福山市

〒720-8501 福山市東桜町3番5号

電話 084-928-1012

福山市ホームページ

URL=<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/>

編集：企画総務局企画部企画課

制作・印刷：(株)ぎょうせい



ROSE CITY
FUKUYAMA